

革命の旗

共産主義者同盟
(革命の旗)
中央機関紙

第25号
1980-9-20
定価 100円
(毎月5日・20日発行)

発行人 北沢 晋
発行所 赤流社
電話 (03)407-3511
東京都世田谷区千歳
郵便局 私書箱4号
振替 (東京)7-86947

年間定期購読料
開封2500円(送料共)
密封3000円()

同盟第二回大会成功す



日帝の帝国主義強盗戦争準備に対決し、革命的祖國敗北主義を貫こう(二月リムバック闘争)

南朝鮮人民の闘いに呼応し「分派から統合」を更に前進させよう!

全国の共産主義者諸君、戦闘的労働者、農民、学生諸君、
九月××日、共産主義者同盟(革命の旗)第二回大会が二月以上にわたる周到な準備と組織化を経て、圧倒的に開催された。

大会は政治報告「第一部：総括、第二部：情勢と任務」を採択し、次に綱領草案の一部改正を行い、今日の労働運動に対する戦術テーゼ(草案)の提起に続いて最後に「女性解放に関するテーゼ」を採択し、成功に終了した。

大会は、虐殺された小西同志の社会主義革命の勝利へ向けた熱烈な遺志を継承し、鈴木戦争準備内閣の登場による帝国主義戦争準備の強化、賃金奴隷制の強化、人民収奪の強化、政治反動の促進の全面化と日韓連帯・反安保闘争を軸とした日本階級闘争の新たな高揚、新しい政治勢力の登場という一年前とことなつた情勢を見すえ、戦争と革命の八〇年代の幕が上つたことをしっかりと確認し、労働者階級・人民の最前線に闘う中で、革命の主体的条件の整備を急ぎ、もって「帝国主義戦争を内乱へ」転化する政治と組織とを形成し、日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命へ怒濤の前進をかつとてゆくことを強固に意志統一した。

全国の共産主義者諸君、戦闘的労働者、農民、学生諸君、
共産主義者同盟(革命の旗)の下に結集し、新しい情勢と新しい任務の中、革命の主体的条件を全力で整備せよ」を合言葉に、単一の全国的なマルクス・レー

第一部 同盟活動総括

はじめに

第二回大会政治報告 目次

第一部 総括	はじめに
第一章	日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命の「正規の攻囲」軍建設は、どこまで前進したのか
第二章	諸人民闘争の前進
第三章	労働戦線・学生戦線におけるわが同盟の闘いと前進
第四章	単一の全国的なマルクス・レーニン主義党創建の闘い
第二部 情勢と任務	第三次帝国主義戦争の第一段階の成熟と反ソ反米反覇権国際人民闘争の発展
第一章	帝国主義諸国の危機と階級闘争の深化
第二章	マルクス・レーニン主義と現代修正主義の分裂と闘争
第三章	日本帝国主義の体制的危機の根本性
第四章	日本安保体制の再編・強化と帝国主義戦争準備の現局面
第五章	朝鮮人民の民族解放闘争・南北自主的平和統一闘争と日本プロレタリア階級の任務
第六章	日本階級闘争の主体的条件の拡大・社会主義革命の接近
第七章	当面するわが同盟の任務
第八章	

同志諸君、この一年の間に七〇年代中期から始まった日帝の体制的危機は、いよいよ深まり広まり激化した。

日帝は、民族解放闘争の爆発・発展、特にイラン革命と南朝鮮の反米反日反独裁闘争、ソ連社帝との覇権争奪、高度経済成長の破綻の中で、いままでのように中東の石油資源を略奪し、アジア、特に南朝鮮を植民地支配し、労働者階級を超過利潤の一部で買収しつつアメとムチで支配してゆくことが困難になり、いよいよ今までどうり支配できなくなり、又望めなくなつた。

これに対し、社・公・民・エセ「毛沢東思想派」や特殊に革マル派が、日帝の体制的危機を促進する方向で活動するのではなく、救済に向い、公然然然と反ソ祖國擁護主義を煽り、帝国主義戦争と賃金奴隷制の強化とブルジョア階級独裁の反動化、差別分断支配の強化を願ひ、帝国主義ブルジョア階級の主要な社会的支

柱へ転落し始めた。

かくして、日帝の米帝と結託した帝国主義戦争の準備と右翼的「労働統一」「連合政権」とが、急速に、しかし複雑な任方で行進し始めたのである。

このことと連動し、労働運動の管制高地をどのような路線・政治性格として戦取し、労働者階級が人民とどのような相互関係を作り出し、どのような全人民的指導能力を形成・蓄積してゆくのかを中心問題とする日本階級闘争の歴史的転換がいよいよ本格化した。

我々は、かかる日本階級闘争の歴史的転換に対し、(経営参加・連合政権・ブル独の擁護か、資本の没収・生産手段

新しい情勢と新しい任務の中、革命の主体的条件を全力で整備せよ!

他方、ブンド系の多くや中核派、解放派、第四インターは、情勢の激動についてゆけず綱領的限界を露呈し、真に逆流に抗しきれず階級闘争の歴史的転換に対する戦略的展望を示さず、政治的影響力と政治的地位とを後退させている。

七〇年代階級闘争を支え担い領導してきた彼らは、ソ・米・日・西欧の第三次帝国主義戦争に対する態度、右翼的「労働統一」「連合政権」の道を通じ帝国主義ブルジョア階級の主要な社会的支柱へと突き進む労働貴族・修正主義・社帝に対する態度、プロ独の準備の方法・形態に対する態度に対して、急進民主主義

放派、第四インターの綱領的路線の混迷を批判しつつ、革命的祖國敗北主義・暴力革命・プロ独・社会主義革命で労働者階級の要求を組織し、プロ独を準備する。闘いの物質化を促し、革命的大衆行動と非法組織の建設を取ってゆかねばならない。

実際、かかる闘いの決定的な飛躍の機会・試験の時、八〇年代階級闘争の重大な節目を固く守るべきである。いまは、この闘いを固く守るべきである。いまは、この闘いを固く守るべきである。いまは、この闘いを固く守るべきである。

勿論、月二回刊体制は未だ真に確立しているわけではない。第二回大会以降、その完全化を計ってゆかねばならない。そして第三回大会までには、旬刊化を戦取せねばならない。こうして中央集権制を一層強化してゆくのである。

また東京都委・神奈川県委の確立につき、他の地方委建設に着手し、同盟の全国化の闘いも着実な前進をかつとてきた。

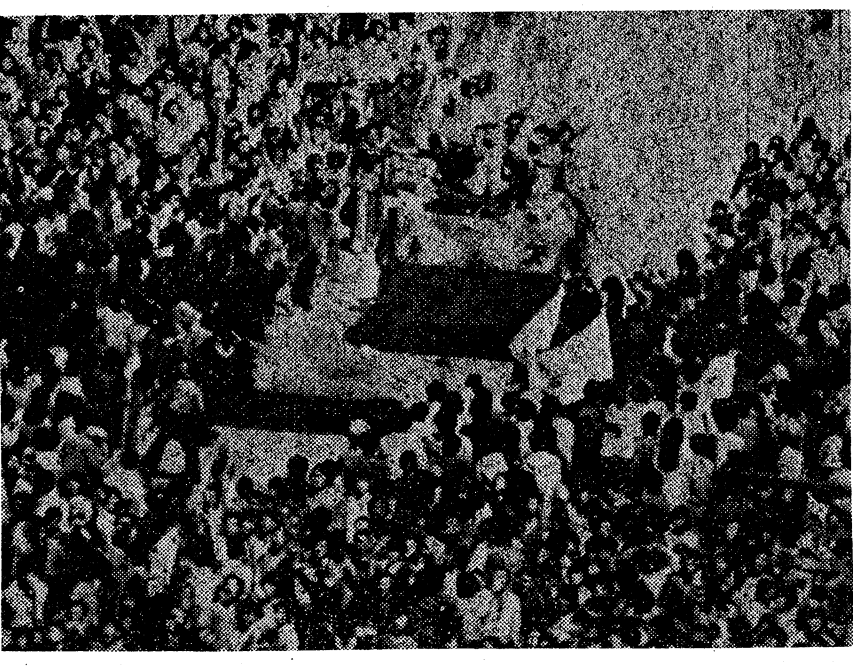
以上、我々は日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命の「正規の攻囲」軍建設を促し強め推し進めてきた。

しかし、革命の主体的条件の整備はこれからが本場の試験である。日帝の帝国主義戦争の準備と労働者階級のブルジョア階級の死活をかけた闘いは、これから本格化していくのである。

そうであるからこそ、我々は自己の一層の政治的・組織的発展をかつとてゆかねばならないのだ。わずかばかりの「正規の攻囲」軍建設の前進にうかれはならない。身をひきしめ一層の(全)戦線で社会主義革命の要求を組織し、プロ独を準備する。闘いの物質化を促し、革命的大衆行動と非法組織の建設を取ってゆかねばならない。

現在、帝国主義ブルジョア階級は、(1)光州蜂起のばつ発によって南朝鮮の反米反日反独裁闘争が内乱へ転化・発展することによって、日帝の新植民地主義的支配が根底からぐらつき、(2)同時選挙による自民党の大勝と野党の惨敗、民社党の日米安保体制・自衛隊の積極的擁護、社会党の民社党への接近の不可避性、(3)日韓連帯・反安保闘争の新たな爆発・発展を通じて革命的な高揚の始まり、労働者階級人民の政治的流動化の加速度的発展の中で、鈴木政権を前面においた、一挙的全面的な帝国主義戦争準備にのりだし、日韓連帯・反安保闘争をはじめとする人民闘争の背骨・貯水池をなす三里塚闘争への敵対を強めると同時に、労働貴族・修正主義・社帝による労働戦線の完全支配を公然・陰然と支持し促している。今では彼らは、「民主・対話・連合」という甘いオブラートで労働貴族・農民・都市小ブルジョア階級をおおひ包み慰撫し、全体的に統合していく太平の眷国一致体制構築から居丈高な日米安保体制の再編

そこを建てる 開く力ギである



光州蜂起は日本労働者階級の国際主義的責務を問うている

「一頁から続く」
・強化を行い、靖国神社法案による天皇制・天皇制イデオロギーの前面化を押し、小選挙区制導入、刑法二法の改正「正」新橋バス放火殺人事件を利用した保安処分制導入の動き「更」には、大蔵警察・防衛官僚を軸とした五五年体制の官僚機構の再編・強化を推し進め、国家財政再建という美名の人民収奪と独占の育成・強化による重工業・耐久消費財型産業蓄積構造から原子力・航空宇宙・電子工業型産業蓄積構造への転換をめざし、この下にその階級を強引に統合しようというのである。

つまり帝国主義ブルジョア階級は、力づくで全戦線での帝国主義戦争の準備を推し進めようとしている。これに対して労働者階級・人民の反撃も確実に始まり激化している。

高度経済成長時にIMF・JCを先頭とした労働者階級も労働運動の帝国主義化に対し、組織労働者「下層」は一定の反撃を試み、この策謀をおしとどめてきた。たしかに、この闘いの中で、彼らが社共の指導とその枠を突破しきれなかったし、またこのことを指導しきる労働者階級の単一党も存在していなかった。だが今日、このような組織労働者「下層」が、高度経済成長が破綻するなかで、帝国主義労働運動の育成・産報化に反対するのは不可避であり、またこうした社共・労働者階級の指導に満足しえなくなっている。

こうして「資本家階級の帝国主義戦争の準備と労働者階級のブルジョア階級の準備をめぐる死活的な闘い」(長征)は、急速に激化し血みどろの闘いへと向かわざるをえない。これは、我々が統合大会で、十・八政治集会で予測した事態であり、望むところである。

同志諸君、労働者階級・人民は、自主的にブルジョア階級を打ち破る。光州蜂起を頂点とした今春の南朝鮮の反米反日反独裁闘争の爆発・発展と、日米安保体制の下での全斗煥一派の光州蜂起の反革命弾圧、金大中氏らの軍事裁判・死刑攻撃に連動した五月から九月に至る日韓連帯・反安保闘争は、その規模の拡大と連続性からいって、昨年末から今春にかけて日本階級闘争の新たな高揚を明確にし、それを更に押し上げている。

敵の奇襲攻撃に備え
正規の攻囲をいそげ

しかし、闘いは我々が望んでいるより困難で複雑な仕方で進んでいる。これは革命の高揚の始めに見られる特徴の一つである。社・共は勿論、第四インター・革マル派が市民主義者と手を握り合い、労働者階級・人民の革命的戦闘的軍事的发展を押し止し、他方ブンド系の多く

や中核派・解放派がこれに対し何らの政治的組織的展望も示さず、無為無策に陥っている。

そうであればあるだけ、我々は党建設の打ち固めの時期にありつつも、前衛として闘い抜き、新たに政治生活へ突入しつつある労働者階級・人民に方向を示し、統合し、組織してゆかねばならない。そして、生起している運動上の諸理論・組織問題に対する全面的解決能力と、いつでも、いたるところで、あらゆる活動舞台で、あらゆる転換・事態に即応し「革命的戦士」(レーニン)の部隊の用意する組織力を形成・蓄積してゆかねばならない。

革命的な反戦闘争の爆発・発展を更に促進すること、三里塚を武力防衛すること、反合資上闘争を武力で闘うこと、これらの闘いを暴力革命・ブルジョア階級革命の下に束ねあげ、戦線を整え、社共党・総評・プロックの下での戦闘的労働者組織労働者階級の統一を促し強め、もつて、わが同盟の組織的前進を闘いとしていかなばならない。

防衛し、組織労働者「下層」と労働者「下層」の階級の統一を促し強め、もつて、わが同盟の組織的前進を闘いとしていかなばならない。

そして、レーニンが「一九二二年のロシア社会民主労働党全国協議会のスローガンとメーデー運動」の中で述べたような細胞を、職業革命家を中核として労働者階級の深部に無数に建設してゆかねばならない。

「ロシアの大部分の地方では、わが党の

状態はまさにつぎのようなものであった。すなわち、指導的委員会は中央部にゆり、工場内の、労働組合の、また地区と小地区の社会民主主義グループすなわち「細胞」自身が存在しているおかげで、たえず新たに発生するという状態なのである。

こうした細胞をつくりだすことによつて、我々が党の活動は一層広範な労働者階級の中に基礎を置き生き生きとしたものとなり、労働者階級の闘いを首尾一貫して革命の大道につかせることができるのだ。

同志諸君、日帝の体制的危機の深化と広がり、激化による新たな情勢、階級闘争の不可避性を見ず、鈴木戦争準備内閣との全面的対峙を闘い抜き、新しい政治勢力をブルジョア階級革命の側に獲得してゆくことが肝心である。この闘いの進展・成長度合、勝敗がブルジョア階級の闘いの大きな分岐点になるであろう。だから我々は、同盟一年間の闘いの成果をふまえ、戦争準備・人民収奪・反動攻勢と全面的に闘い、かつ帝国主義ブルジョア階級のブルジョアの合法性を打ち破つた奇襲に備え(全戦線)で社会主義

革命の要求を組織し、ブルジョア階級を準備する闘いを一瞬も休まずに、たえず物質化してゆくことを強固に意志統一せねばならない。

具体的には、「国家と革命」「戦争と革命」に対する原則的態度を当面的革命的な反戦闘争、三里塚闘争、反合資上闘争、反差別闘争を環とする右翼的「労戦統一」・「連合政権」反対闘争の中で、反ソ祖國擁護主義批判、半革命的祖國敗北主義批判、戦争政策阻止革命論批判を通じて、一層厳格に打ち固めてゆくことである。

次に「革命の旗」月二回刊体制を真に確立し、テーゼを作成し、全国化を一層具体化し、文書による活動を徹底し、中央集権制を強化してゆくこと。この上につつと拠点細胞建設を口先に終わらせることなく、実際のものとしてゆくこと。そして、我々の労働組合を、実際に建設してゆくことである。

こうして我々は、革命の主体的条件を整備し力を集中し決定的に急ぎ、労働者階級の熱達した組織能力・組織上のつながりを緊密に結びつけ、革命の大衆行動を促し強めると同時に、非合法組織を準備し組織してゆくことを強固に意志統一してゆかねばならない。

軍事大化のなかで、アジア支配の争闘を相互にくり広げざるをえず、従つて安保体制とは当面相互のこの矛盾のかけひきたるものへと転化している。と分析している。それ故、日帝が対ソ社共との争闘のため、被抑圧民族の解放闘争の抑圧のため、更には社会主義国への対抗のため米帝と従属的同盟を結び、この軍事大系と戦略にそつて最大限自己の利益の防衛と拡大を計らんとしていることを見抜けずにいる。だから日米安保体制のもとで、朝鮮人民が南北に分割されるなか、南朝鮮人民が日米帝の植民地支配とカイライ政権打倒に決起していることを正しくとらえることができない。これは朝鮮人民と日本プロレタリア階級の真の国際主義的連帯を築くことはできないし、日本プロレタリア階級を労働者階級の影響し新修正主義者の支配から解きほかす獲得してゆくことは不可能である。まさに七〇年「七・七青闘告発」の戦闘的左翼に対する敵しい批判を再度想起せねばならない。

こうした当面する政治環境を明確にせず、労働者大衆への革命党としての態度の放棄は、増々彼ら自身の矛盾を深め、氏々の安んび論は、日米安保体制内での市場分割論であり、その限りでの権力問題としての安保体制と日韓連帯闘争を射撃に収めていた。だが今日の革共同が、国家と政府と諸階級・諸階層の間の分析を放棄し、増々戦闘的人民主義としての姿を明確にする中で、今日の事態は不可避のものといわねばならない。ましてや彼らが蓄積してきた労働戦線での役割は七〇年以降その役割を充分に発揮しえず、千葉労働の偉大な闘いの全国の労働組合運動における先進的位置さえ正しくつぎ出していない。こうして反ソ・タ・トロツキズムの破産と急進民主主義の限界が一層革共同自身を束縛せねばならない。これが階級闘争の今日の事態のもつとも如実な姿に他ならない。確かに革共同自身、七〇年安保大会から七〇年代中期にあつてブンドの分解・分裂の中で、「共産主義者の党」・反帝・反スターリン主義綱領のもとで組織骨格がつくり出され、その分、矛盾の速度がおそかつたにすぎない。だが、今や我々の眼前に展開する階級の現実、反ソ・主体性・主義や、革共同幻想、党組織の官僚的支配によって止揚できるものではない。二十年來の革共同の「思考停止」は、確実に彼ら自身の破産を示しているといつても過言ではない。

②第四インターの分裂と混迷

中核派にとつてかわつて、またブンドの分裂の中で人民闘争のヘゲモニーを掌握し、全国党として成長してきた第四インターは、

「三頁上段へ続く」

第三節
革命的左翼の混迷・分解と再編統一

労働者階級・人民の反抗の増大、その全戦線での拡大と社会主義革命の主体的条件の整備の前進と反比例し、六〇年・七〇年型の革命的左翼の混迷・分解と再編・統一の動きはその速度を増している。革マル派は、口先では「反ソ民族戦線反対」を唱えつつ、実際には、ソ連の「日本への侵攻に対し、革命的祖國敗北主義の態度をとるべきではない」とし、反ソ祖國擁護主義に屈服し、その上で今年八月の動労大会において「社共民路線反対総評防衛、総評左派結集」を提起した。これは欺瞞である。組織労働者「下層」の右翼的「労戦統一」反対の闘いのうねりを目共統一労組懇、そして協会、岩

革命の要求を組織し、ブルジョア階級を準備する闘いを一瞬も休まずに、たえず物質化してゆくことを強固に意志統一せねばならない。

具体的には、「国家と革命」「戦争と革命」に対する原則的態度を当面的革命的な反戦闘争、三里塚闘争、反合資上闘争、反差別闘争を環とする右翼的「労戦統一」・「連合政権」反対闘争の中で、反ソ祖國擁護主義批判、半革命的祖國敗北主義批判、戦争政策阻止革命論批判を通じて、一層厳格に打ち固めてゆくことである。

次に「革命の旗」月二回刊体制を真に確立し、テーゼを作成し、全国化を一層具体化し、文書による活動を徹底し、中央集権制を強化してゆくこと。この上につつと拠点細胞建設を口先に終わらせることなく、実際のものとしてゆくこと。そして、我々の労働組合を、実際に建設してゆくことである。

こうして我々は、革命の主体的条件を整備し力を集中し決定的に急ぎ、労働者階級の熱達した組織能力・組織上のつながりを緊密に結びつけ、革命の大衆行動を促し強めると同時に、非合法組織を準備し組織してゆくことを強固に意志統一してゆかねばならない。

第二章
情勢と任務

第一章(六章)(略)

第七章
日本階級闘争の主体的条件の拡大—社会主義革命の接近

第一節、第二節(略)

第三節
革命的左翼の混迷・分解と再編統一

井一派で改良主義の枠におし止め、その力を蓄え、もつて社・共・民路線と合流しようというものである。つまり革マル派は、社・共・民路線の軍事的政治的別働隊なのである。

①中核派の安保闘争から
の逃亡と戦闘的人民主義のゆきづまり

七〇年代中期以降、第四インターに人民闘争の指導のヘゲモニーを奪われた中核派の混迷は、今や路線的にも行きづまつてきている。彼らは現在、安保・日韓闘争から召還している。彼らによれば、

「三頁上段へ続く」

真の集团的組織者へ

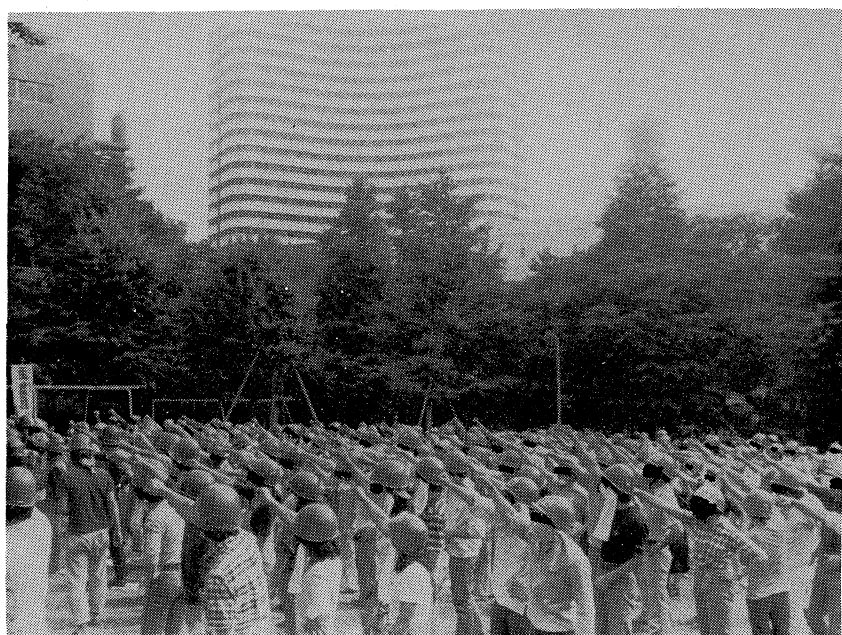
新聞は政治・組織
路線のカナメ

われわれは「長征」創刊号「第三部」建設、マルクス・レーニン主義の単一党建設へ、新たな長征へ出発せよ、と次のように提起している。闘いの軸に全国政治新聞を要とした全面的政治暴露を組織して、今日の情勢すなわち、人民闘争の発展・爆発、……総じて革命情勢の端緒的開始の下で日々抗議と反抗を強めるプロレタリア階級、被搾取労働大衆のその全ての闘いの表われをとらえて、暴力革命、プロレタリア階級独裁、社会主義革命の宣言・煽動をもちこみ、プロレタリア社会主義の歴史的統制的政治教育を行つて……プロレタリア階級の先進分子はもとより、労働者多数の反抗を促し、彼らの政治意識と革命的積極性を培養して、大胆に革命的自覚と決意を呼びさまし、彼らを揺り動かして、この情勢にこたへる組織、すなわちマルクス・レーニン主義の単一党建設へと動員していく」全国政治新聞を要とした党建設こそ、新聞が軽視され「集会・デモ」にヘルメット部隊を登場させ、それらを諸活動の軸と「長征」す

われわれは、新左翼とりわけ第一

「三頁上段へ続く」

単一の革命党創 80年代を切り



6.22闘争は、革命的大衆行動の序曲となった。

二下段から続く

ンターも、また大きな停滞と分解を今日強行されている。

ソ連社のアフガニスタン侵略を契機として、「侵略弾劾」と「アフガン革命の防衛・ソ連軍事侵出支持」との論争が第四インター内に生じ、結局この論争は彼らの綱領的立脚点たる「労働者国家無条件擁護」そのものをめぐって「根本的には第四インターの綱領的書たる第四回大会文書」党内路線闘争に向かわざるを得ないものであった。この現代ソ連論、社会主義論をめぐった型での公然たる分裂は、今までの第四インター内論争の一つの帰結である。すなわち、当面する日本革命に向けた戦術たる「労働政府樹立」をめぐって「社共統」戦線の「左」からの促進か否か、そして「これ」を労働運動の今日の局面でどのようにおし進めるかをめぐった論争の延長に存在してきた。ましてや今年の六・一五以降、第四インターの大衆闘争への指導、反戦反安保闘争の指導は、この戦術を何ら有効に提起しえず、むしろ小ブル平和主義者が主導する市民運動の中に埋没し、幅広イズムの追求におわっている。

こうして第四インターは、主流派と反主流派に分裂し、反主流派の一部が「稲妻」グループを結成し、独自の党建設に動き始めた。

③ 解放派の停滞と分裂

解放派の連合戦線党としての存在は、早くから指摘されてきた。しかし今日の

彼らの矛盾は、当面する戦術上の相違にとどまらない。すなわち、社共内左派として労働組合運動の左傾化を下から追求しようとする部分と、六〇年代の革命的左翼の風のような闘いのなかから成長してきた部分の論争は、根底的には革命党建設をめぐる政治路線、それは一言でいうなら、ローザの党か、それともレーニンの党かをめぐってジグザグしてきたものでありより根本的である。しかし後者を代表する部分は、かつてのブンドの「世界革命」論の焼き直し、急進民主主義の縮小再生産を追求し、前者に対してはるにすぎない。それ故、今日の階級闘争の激化の予兆に対して、的確な指針たりえないことはいうまでもない。ただだからといって、前者の傾向がこのことを止揚する道をもっているわけではない。たしかに、社会党の右傾化と労働官僚どもの統制のなかで、一定の戦術的役割は果たしてもその労働者階級の闘いを発展させる綱領的指針はどこにもない。

政治形成の破産が突きつけられているという他に他ならない。新旧修正主義が一層体制内化し、それがブルジョア階級独裁と一体となってゆくなかで、日帝の体制的危機の延命を公然と示してゆくなかで、単に反社共として反政府運動の戦術性による労働者階級自身の未来の建設が不断に拡散され、労働者階級自身の組織的な支配階級としての登場、そのうちかためそのものができないことを示している。すなわち自らが、ブルジョア階級と正面切った対立を不可避とするなかで、戦争と革命・国家と革命」についてプロレタリア階級の鮮明な指針そのものが問われてきているに他ならない。すなわち、人民闘争の暴力的混迷と技術的設定、それによる同心円の党建設の破産をつきぬけ、現代革命・日本社会主義革命の根本的問題がよりリアルにより具体的戦術的レベルにまで至ってつきつけられているからに他ならない。

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

政治的活性化の初期から、具体的に当面する階級闘争に対する政治的態度をめぐって、①連帯論、②第三次世界大戦、③国際人民闘争、④朝鮮革命、⑤日米安保体制、⑥戦争と革命についてより具体的に示してきた。

とくに五月以降、エセ「毛沢東思想派」の反ソ祖國擁護主義・ブルジョア階級独裁への迎合を徹底して批判し、戦術的労働者への思想的影響をたち切り、ブンド総括に介入してゆくことの阻止に全力をあげると同時に、他方では、ブンド系急進民主主義諸派との国家と革命、ソ連論、日米安保体制論について論争し、同盟の基本路線・日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命を明確に提示してきた。

この意味で、一年間の同盟の活動は、思想をより政治的態度として具体化し、革命的進歩を築きつづけているといえる。そのれ故、ひきつづき思想・政治的進歩・綱領路線の深化・発展を闘いつつ、他の急進民主主義諸派をひきつけ、組織的にも説得できる労働者階級の党として、自己的・量的拡大を闘いつづけていくこと、これが当面する革命的主体の構築の環である。それは「労働戦線を主戦場」として党建設とともに、学生戦線における組織的進歩を可能に限り戦取することが重要である。

この同盟は、客観的にも主観的にもマルクス・レーニン主義の第三次ブンドの建設を主導する地位にある。紅旗派との統合に全力をあげ、この事業を達成すると同時に、戦旗・共産同、日共(ML)

キズムの政治的貧困・空論性の破産として見る事ができる。しかし、それ故それらは同盟にとってもまたより一層の思想・政治路線の深化、緻密化、組織戦術上の深化を要求するものである。

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

第四節 わが同盟の位置・単一党創建への道

こうした政党の分解・混迷と再編は、単一の全国的なマルクス・レーニン主義党創建へのわが同盟の闘いの重要性を示している。こうした諸派の停滞と対岸の火事として見ることが許されないことは言うまでもない。問われていることは、この分解・混迷により深くわけ入って思想・政治路線の組織化と同時に労働者階級の政治的活性化、革命的階級闘争への一層の決起を闘いつつ、攻勢的な党と統一戦線の形成・発展に着手し、社会主義革命の主体的条件の整備に一層の努力を傾けることである。

わが「革命の旗」の結成と活動は、いまやブンド系分派闘争の時代の決着というレベルにとどまらない。統合大会以降、党建設・単一党建設の闘いは、またこのために提起した統合の六条件と思想・政治路線上の論争は、少なからず、革命的左翼として更に共産党から分裂してきた「毛沢東思想派」の一部にも波及してきている。その思想・

政治的活性化の初期から、具体的に当面する階級闘争に対する政治的態度をめぐって、①連帯論、②第三次世界大戦、③国際人民闘争、④朝鮮革命、⑤日米安保体制、⑥戦争と革命についてより具体的に示してきた。

とくに五月以降、エセ「毛沢東思想派」の反ソ祖國擁護主義・ブルジョア階級独裁への迎合を徹底して批判し、戦術的労働者への思想的影響をたち切り、ブンド総括に介入してゆくことの阻止に全力をあげると同時に、他方では、ブンド系急進民主主義諸派との国家と革命、ソ連論、日米安保体制論について論争し、同盟の基本路線・日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命を明確に提示してきた。

この意味で、一年間の同盟の活動は、思想をより政治的態度として具体化し、革命的進歩を築きつづけているといえる。そのれ故、ひきつづき思想・政治的進歩・綱領路線の深化・発展を闘いつつ、他の急進民主主義諸派をひきつけ、組織的にも説得できる労働者階級の党として、自己的・量的拡大を闘いつづけていくこと、これが当面する革命的主体の構築の環である。それは「労働戦線を主戦場」として党建設とともに、学生戦線における組織的進歩を可能に限り戦取することが重要である。

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

『革命の旗』を 政治局・「革命の旗」 編集委員会アピール

主義的労働者新聞として内実をいかに形成していくのか、意見が集中し白熱した討議がかわされた。ここに同盟建設の第一歩前進を確信すると同時に、われわれの弱点を克服する課題をつかむことができ、ヨア階級独裁と資本主義を延命させたいのか、それともこの危

それは第一に、様々な生起している政治的諸事件のなかから、当面する階級闘争の中心環をつかみ出し、われわれの政治的態度を一層鮮明にし、労働者階級の思想的・政治的武装をうながし、プロレタリア単一党創建のため闘いを進めていくことが、「革命の旗」の最大の性格とならねばならないことである。階級情勢は、日一日と国内的にも国内的にも「戦争と革命」の時代」の特徴を示し、ブルジョア支配階級をして旧来どおり支配できないことを痛感させ、帝国主義戦争準備・政治反動勢力を強める中、労働者階級より一層の経済的隷属を強めるために帝国一致体制づくりへ全力を投入し、ブルジョア階級独裁を延命させようとする。それは他方では、労働者階級・人民を新たな政治生活へと導き入れ、日韓民衆連帯・反戦反安保闘争、そして様々な経済闘争を増大させている。

今日、戦術的部分の政治的活性化のみならず、それは社共の下部メンバー、労働組合の活動家レベルにまで広がっており、決定的ではないが政治的危機が浸透し、闘いが始まり、労働者階級の指導に満足しなくなっているという事態を迎えている。この間の日韓連帯闘争への予想を上回る大衆動員という事態は如実である。だがこうした階級闘争の新たな活性化・社会主義革命の序曲の開始に旧来の思想・路線が止揚せねばならないものとして問われてきているのが現実である。この事態は、①急進民主主義・左翼反対派運動の破産、②反スタ・トロツ

第八章 当面するわが同盟の任務

当面する政治的課題

以上五つの基本的任務をふまえて、当面する政治的課題を定め進撃することである。

第一は、革命的階級闘争の組織化、とりわけ日韓連帯・安保粉砕闘争の組織化を通じ、政治反動との対決を前面におしだし、社共政治の暴露、急進民主主義派との論争を強めること。

（略）

日帝の植民地支配の廃棄のため 日韓条約の破棄、在韓資産の無 条件放棄をめざす大衆行動を!!

金大中氏を殺すな!

安保粉砕は民主・統一闘争支持のカナメ



死刑攻撃弾劾/9.11外務省緊急抗議闘争

九月十七日、韓国陸軍軍法会議は金大中氏に対し死刑執行判決を文益煥、高銀泰氏ら三名の民主人士に対して懲役二〇年から二年の重刑判決を下した。八月十四日の第一回公判から一ヶ月あまりのスピード裁判である。われわれは全斗煥軍政によるこの無法・非道な「判決」に激しい憤りを禁じえない。この不法な政治裁判を絶対に許すことはできない。

「判決内容」自体、そもそもいかなる法を適用して死刑としたのかすらはつきりしない、まったくデタラメなものである。国家保安法あるいは内乱罪を適用したといわれているが、「内乱罪」なるものは起訴状、論告求刑には全然でてこなかった代物である。「国家保安法」については、韓民族を「反国家団体」と決めつけて「これがデタラメであることは元駐日KCI A公使が明確に証言している」、それを組織したとしているが、これに関しては日本政府との「政治決着」を考慮して責任を問わないとしている。

では、何の「罪」で金大中氏を死刑としたのであろうか。「判決」では金氏の存在自体、政治活動自

体「悪」であり抹殺しなければならぬとされているのである。これは「裁判」に名をかりた金大中氏ら民主勢力の「合法的」抹殺劇なのである。

金大中氏は公判の中できつぱりと証言しているように、全斗煥ら維新派の台頭に反対し、民主と統一を求め、合法的政治活動を展開した。民主化を要求し、全土に拡大した民主化の嵐を恐れた全斗煥一派は軍事クーデターにより政権を奪取し、民主化闘争を銃剣で圧殺しようとした。光州大虐殺をみよ、その総仕上げが金大中氏ら一七五名にのぼる人々への報復裁判である。これと並行して、在日韓国人「政治犯」死刑囚五五五への再審審判、南朝鮮民族

いま全国で、金大中氏らを殺すな、百日間緊急運動、がくり広げられている。

東京では、八月いっばいの数寄屋橋テント闘争の成果をひきつぎ九月十一日の求刑時から一週間の断食闘争が闘われた。これを中心にして運動の輪は首都圏各所に広がっているが、国家権力は十七日、外務省交渉にむいた百日間運動の代表団に襲いかかり、梅村宏道氏ら四名を逮捕するという暴挙にでた。しかし、これをね返すかのように同日夜、日本連絡会議主催の国民大会には日比谷野音をうめつくす一万人以上の人々が集結し闘いの決意をあらわした。

神奈川では、神奈川連絡会議を軸に闘いが展開されている。八月の各地のハンスト、全県キャラバン、求刑日には連絡会議、県評共催の集会に千五百名が結集し、横浜領事館への抗議行動が何度も取

支持を公言した日本政府のテコ入は重大である。そして、それを許している日本の労働者階級・人民の責務はより重大である。このことを肝に銘じ、かつ次の点に留意して運動を進めてゆかねばならない。

第一に、広範な国内、国際世論によって日本政府、全斗煥軍政を包圍し、追いつめていくこと。

第二に、金大中氏の肉体的生命とともに、彼の思想、政治的権利を守り抜くこと。助産運動にきりかちめはならない。なぜなら金大中氏の生命は、一人彼自身のものではない。民主と統一を願うすべての韓国民衆、朝鮮人民のものであり、闘いに燃れた光州市民のものであり、全世界の闘う民衆のものだからである。

第三に、現在、七四年の「田中親書」権名メモの実質化をもくろみ日韓国人、朝鮮人民民主勢力を対峙し、解体策動が強化されている。これを許さず、共同した力をつくりだしていくことである。最後に、全国で展開されている救出運動を、民族排外主義との闘いで全力で闘おう!!

大阪発

怒りの緊急集会

大阪府警・機動隊の蛮行許すな!

九月十七日、大阪難波において金大中氏ら二十四名への死刑・重刑攻撃を阻止する署名・カンパ活動が取り組まれると共に、断食闘争四名がハンスト闘争へ突入した。

午前十四時四十分、韓国軍法会議は金大中氏への死刑を含む他の全員に求刑どりの重刑判決を打ちおろした。

韓国民衆の民主・統一を求める闘い、光州蜂起に見られる人民の決死的決起を、更なる暴虐でもって鎮圧せんとする全斗煥派とこれを支える日米帝によって打ちおろされたこの判決をどうして許せようか!

難波での署名・カンパ活動ハハンスト闘争は、開始と同時に多

この大阪府警・機動隊の弾圧・妨害こそ、日帝が韓国の新植民地の中で日韓民衆連帯の持続的な運動へとより深く根づかせると共に、全国の闘う力を集中させ、日本政府・外務省への大衆的な包圍・糾弾のうねりを作り出すことである。こうして日本労働者階級・人民の政治的自覚と決起をかちとつてゆくのでなければならぬ。

九月十八日には、全国規模の大集会が計画されている。九月十日の闘いがすべてを決するといつても過言ではない。今が正念場だ!同志・読者諸君! まなじりを決して全力で闘おう!!

支配維持のために全斗煥軍政がライ政権を支え、韓国の民族民主革命の圧殺を望み、日本労働者階級が韓国の民主・統一闘争への連帯から「他民族を抑圧する民族に自由はない」ことを学びとり、日本社会主義革命に突き進むことを心底から恐れていることを示している。

「金大中氏ら全ての政治犯の無条件即時解放/死刑執行阻止」を掲げ、更に韓国の民族民主革命/日帝の植民地支配の廃棄をめざし、日韓民衆連帯を全ての労働者人民の闘いとすべく一層奮闘しよう!!

9/20・21 不当逮捕を弾劾する!

この間の日韓民衆連帯行動の発展に対応して、国家権力は弾圧を強化している。二〇には、九・二一闘争の情宣活動中の反戦反安保の仲間一名を、また九・二二闘争でもデモ行進中の仲間が不当逮捕された。この弾圧を許さず、労働者階級・人民の隊伍を強化し、前進しよう!

現場から

全郵政と手を握る 全通官僚たたきだせ

全通第33回大会に参加して—全通労働者

行なわれたのである。

「十二八確認」の内容とは①事業への協力を前提とした労使関係の改善②特別昇給制度先行実施への同意のとりつけ③新団交ルート—支部団交の否定である。これこそは「労使はパートナー」として信頼し合い、生産には協力した成果の配分で見合う。対立したときはあくまで交渉で」と言った御用組合だ。二組—全郵政路線への同化であり、明らかにそれは金一路線「職場闘争の進め方」の内容にすら反するものである。それが証として今大会の議案書には全郵政批判は一言も出ていないのである。

それはまさに七八年末の反マル生越年闘争を全面的に清算し、七九年四月二十八日に懲戒免職処分となった五十二名の存在を抹殺したものである。まさに選出された太田一古井戸新執行部体制こそは反マル生闘争の清算と全郵政との組織合併、ないしは全通の限らない全郵政化をめぐらさるものにも他ならないのである。

だが、本部民同が言う如く闘かわすには組織を拡大することなどできるはずもないのである。この第三十三回大会に向けて培われた左派の結束を更に拡大、強化し財政運営や指導権を一手に握る民同中核に大胆に攻め込み下部労働者の尽きるこのないエネルギーをすべてできるだけ早く大衆討議に付し、八十年代の基本路線について討議することとする。当面、十二八確認を最大限活用して組織拡大強化に全力をあげる。二、実験時短に踏み切ることを、本格実施については、実験の結果にもつき踏み切るか否かについて決議機関には、三、特別昇給制度については、最大限はだしい放言をしているが、実際何が根拠もないデマカセにすぎないことが明らかになってきた。だから捜査本部にとっては崩壊した威信をとりもどし、わが同盟と先進的労働者にイヤガラセ的に報復するこのためにのみ前記のような出頭命令をくり返しているのである。

また一方でわが真相を究明する会が小西同志の無念さをわがものとして事件の真相究明と捜査本部の違法捜査の数々への反撃戦を展開

組合大衆の憤りを かんで左派の結束を

結局、五日間の大会はヤジと怒号のなかで以上の路線が大枠決定されたのである。議長集約は、一、全通の基本路線を本大会で変えるものではない。三十一年総括は反マル生闘争を含めてできるだけ早く大衆討議に付し、八十年代の基本路線について討議することとする。当面、十二八確認を最大限活用して組織拡大強化に全力をあげる。二、実験時短に踏み切ることを、本格実施については、実験の結果にもつき踏み切るか否かについて決議機関には、三、特別昇給制度については、最大限はだしい放言をしているが、実際何が根拠もないデマカセにすぎないことが明らかになってきた。だから捜査本部にとっては崩壊した威信をとりもどし、わが同盟と先進的労働者にイヤガラセ的に報復するこのためにのみ前記のような出頭命令をくり返しているのである。

また一方でわが真相を究明する会が小西同志の無念さをわがものとして事件の真相究明と捜査本部の違法捜査の数々への反撃戦を展開

今度は「証言拒否罪」 党と人民への報復 弾圧を許さない!

小西同志虐殺弾劾
真相を糾明する会

小西同志殺害に関する横浜地裁の証人召喚・拘引状の発行という攻撃を断固としてね返した先進的労働者に対しては検察庁はそれへの報復として今度は証言拒否罪の取り調べなるものを口実とした出頭命令を出してきた。そもそも検察庁一捜査一課による小西同志と生前共に闘ってきた先進的労働者に対する事情聴取なるものはそれ自体として全く的不法な予断に満ち満ちたものでしかないのだ。今では彼らはまさに六法全書を重箱のすみをつつが如くこねくりまわして、なんとかして事

抗議の電話・電報 手紙・ハガキを出そう!

抗議先 駐日韓国大使館 Ⅱ〇三(四五二)七六一
東京都港区南麻布一—二一五 Ⅱ〇三(四五二)七六一
「金大中氏を殺すな!」すべての拘束者を即時釈放せよ!

抗議先 日本外務省
東京都千代田区霞ヶ関二—二二 Ⅱ〇三(五八〇)三三二
「全斗煥軍政へのテコ入れをやめろ!」金大中氏ら致事件の責任をとり、金大中氏救出のための具体的措置をとれ!

◎これからの主な集会予定

*9・28 総行動 午後2時 代々木公園B地区
*10・5 韓日連帯全国集会 午後1時 芝公園23号地
韓日統一本部・金大中先生救出委員会主催